別紙１

令和元年度（2019 年度）「中学生のための読書のススメ　teacher 編」研修報告

１　期　日　　令和元年(2019 年)　１０月８日（火）
２　時　間　　午前 9 時 40 分～午後 10 時 30 分
３　場　所　　菊池市立菊池南中学校　校長室
４　参加者　　菊池南中学校の先生方（5 名）社会教育課（2 名）
５　講　師　　情報支援課　指導主事　小畑祐介
６　概　要
（１）講　話「中学生のための読書のススメ　teacher 編」（小畑　４５分）

子供の読書習慣の形成に向けて、発達段階に応じた効果的な取組を推進することや、友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高めることを目的に、中学校教諭向けの学校における読書の推進をテーマとした講話を行いました。

今回の講話では、「学校図書館（学校）が求められているもの」、「社会が読書に求めていること」、「こんなことしてみませんか？読書教育への提案」という 3 つの観点から話を進めました。

「学校図書館が求められているもの」では、法律から学校図書館の意義・目的を確認し、学習指導要領改訂の話題を用い、学校図書館の有用性を再確認していただきました。

「社会が読書に求めていること」では、まず、昨今の学習や子どもたちの現状について述べた書籍の中から、共通してあらわれている課題（認知能力の低下、コミュニケーション能力の重要性、自分軸の大切さ等）を提示しました。次にその課題解決のために、いかに読書が有効であるかを説明し、これからの社会では読書活動が教育の基本となることなどを説明しました。

「こんなことしてみませんか？読書教育への提案」では、前段でお話しした課題を解決するために、どのような取組が有効だと考えるかを提案しました。具体的には、「ビブリオバトル」「読書新聞」「ＰＯＰ作り」など、インプットだけでなく、これからはアウトプットしていくことが力の定着につながるのではないかという提案を行いました。また、指導者に「読書を避ける雰囲気」があるのかもしれないということについて提起し、指導者の側から、もっと読書に親しみを持ち、読む姿勢を見せることが生徒の不読率解消につながるのではないかという提案を行いました。

（２）質　疑（５分）

Ｑ　「朝読書」をアウトプットに利用するのは朝読書の 4 原則（１みんなでやる　２毎日やる　３好きな本でよい　４ただ読むだけ）の 4 番に反するのではないか。

Ａ　「ただ読むだけ」で、力が付いたという実感を与えるのは難しいので、どんな力をつけるのかという意識が大切だと考えます。力を実感するためにもアウトプットが必要になってくるのではないでしょうか。

Ｑ　「力をつけることを意識させる」ということは読書へのハードルを上げることにつながるのではないか、さらに具体的にどのようなことを行えば「力をつけることを意識させる」ことになるのか。

Ａ　その質問に対しては、「力」の定義が難しいが、読書を楽しむことが出来ることも「力」の一つと考えるので、読書は楽しいものだとまず知ってもらうことはハードルを下げることにつながるのではないでしょうか。そのためには、まず指導者が楽しむ姿を見せることではないでしょうか。

７　感　想

指導主事としては、はじめて学校現場へ赴き講話をさせて頂きました。今後も学校全体に発信していく機会もいただきたいと考えています。先生方も、非常に興味深く、今回の話を聞いていただけたようでした。

読書に関しては、中学生になると不読率が高まる傾向にあります。しかし、読書は学習する上で非常に優秀なツールであり、コンテンツです。これからの社会を生き抜く子どもたちを育てるためにも、学生の頃から読書に親しみ、読書を通じて力をつけていくという意識を様々な学校現場に広げていきたいと考えています。